

法人報告

第21回 ホームカミングデーの報告

雨中来場者約2,800人 呼びかけの「お帰りなさい」に破顔一笑



セントラルプラザでくつろぐOB・OGの様子



ホームカミングデー当日の多摩キャンパス



メインステージ企画(スウィング部)



千田健一×健太さん、親子対談



ロンドン五輪に出場した山本亮選手



似顔絵コーナーで喜ぶ学员



模擬店(42年白門会)の様子

卒業生のふれあいの祭典「ホームカミングデー」が10月28日、3年ぶりに本学多摩キャンパスで開催されました。昨年は東日本大震災で自粛し、一昨年は創立125周年記念式典と同時期のため開催が見送られるという経緯がありました。

当日はあいにくの雨でしたが、大勢の卒業生が最寄り駅の多摩モノレール「中央大学・明星大学」駅から急ぎ足で開会式会場へ向かいます。途中各所でスタッフジャンパーを着た係員の「お帰りなさい」のひと言に思わず破顔一笑。

開会式では親子三代の卒業生13組が表彰され、今回は「絆」をコンセプトにイベントが盛りだくさんでした。五輪開催年とあって今回は、ロンドン五輪フェンシング男子フルーレ団体で銀メダルを獲得した千田健太さん(2009年卒)と1980年モスクワ五輪代表の父親、千田健一さん(1979年卒)による親子対談が実現。

健太さんが宮城・気仙沼高2年時に、高校教師の父親が同校に赴任して親子鷹が始まりました。父親は「親子だから」と言われないよう練習や指導をあえて厳しくしたために、メダリストの健太さんは当時父親を「鬼」と影で呼んでいたそうです。苦勞のかいあって五輪で日の丸を揚げるまでになった息子へ「これからは優しい父親になります。罪滅ぼしですかね」と笑顔で話していました。

会場からは「早くに孫の顔を見て親子三代、中央大学だ」と激励の声が飛び、親子三代の期待がかけられていました。

イベント企画は総数31、模擬店の出店は44を数えました。駅伝ファン注目の「対談ロンドン五輪と箱根駅伝」(山本亮氏、浦田春生駅伝監督)、東日本大震災から復興を目指す「講演会 炭鉱から観光へそして復興へ」(常磐興産・斎藤一彦社長)の会場教

※親子三代表彰の詳しい様子は、「学会会からのお知らせ28ページに掲載」

室には大勢が詰め掛けました。斎藤社長は「私どものスパリゾートハワイアンズにおかげさまで来場者が増えています、福島全域にもお越してください」と呼びかけていました。中央の絆では被災地の早期復興を祈念して、誓いの言葉が述べられました。

フィナーレは福引抽選会。50ccのスズキ・スクーターやシンガポール旅行券（20万円相当）など豪華景品の獲得に大きな歓声が上がっていました。

中大の卒業生は約53万人。大学は「おもてなし」の気持ちで卒業生をお迎えします。卒業生で未体験のあなたへ。次回も新たな試みを用意してお待ちしています。



抽選に当選し喜ぶ学员



日本酒や焼酎で盛り上がるテーブル

8号館と11号館のバリアフリーについて

1993年に竣工した多摩校舎11号館（総合政策学部棟）は、他の建物との行き来においてバリアフリーが不十分な状況でした。昨今、社会的にバリアフリーに対する理解・関心が深まってきていますが、本学としてもこの問題の解消に取り組むこととなりました。当初、複数の計画案がありましたが、最終的に8号館と11号館をブリッジで繋ぐ案を採用しました。他の計画案にはエレベーターを設置するものもありましたが、一度に利用できる人数に制約を受けるデメリットがあります。この案に対して8号館と11号館をブリッジで繋ぐ案は、車椅子利用者を含め、より多くの人が利用できるものとなっています。



8号館と11号館を繋ぐブリッジ(手前が8号館)

当施設の特徴は、既存建物と馴染んだ意匠、省エネルギーを基本とした照明計画、渡り廊下左右に施した二重の手すり、車椅子利用者と一般利用者の動線を一部分けることによる緩勾配化、ブリッジ利用者のみ之感応する自動ドア等が挙げられます。

このブリッジにより多摩キャンパス内の人の行き来がより活発になり、教育研究活動や課外活動などに良い影響をもたらすことを期待しています。



雨天時にも利用しやすいようにルーフが設置されている